

国立天文台・天文情報センター・アーカイブ室 中桐正夫

* 岡山天体物理観測所開所記念切手 初日カバー

アーカイブ室新聞200号に東京天文台岡山天体物理観測所開始記念切手が発行された記事を書いた。この記事を読んだ在野の天文愛好家(横浜の野地さん)から記念切手が発行されると、「初日カバー」というものが同時に発行され、記念の封筒に関係の図が入り、記念切手に記念のスタンプが押されたものが販売されるということで、入手されていた岡山天体物理観測所開所記念切手の初日カバー5点が送られてきた。

これを見ると、岡山天体物理観測所開所記念切手を紹介しただけでは、不十分という思いが愛好家からは聞こえてきそうである。初日カバーのデザイン、記念スタンプのデザインも素晴らしく、これらも記念切手同様、岡山天体物理観測所開所記念の記念品としては所蔵しておくべきものと思われる。アーカイブ室では所蔵できないが、野地さんのご好意でその写真をアーカイブさせていただくことにした。写真1は記念切手のデザインの元になった瀬戸内海を背景に下絵を使ったものである。

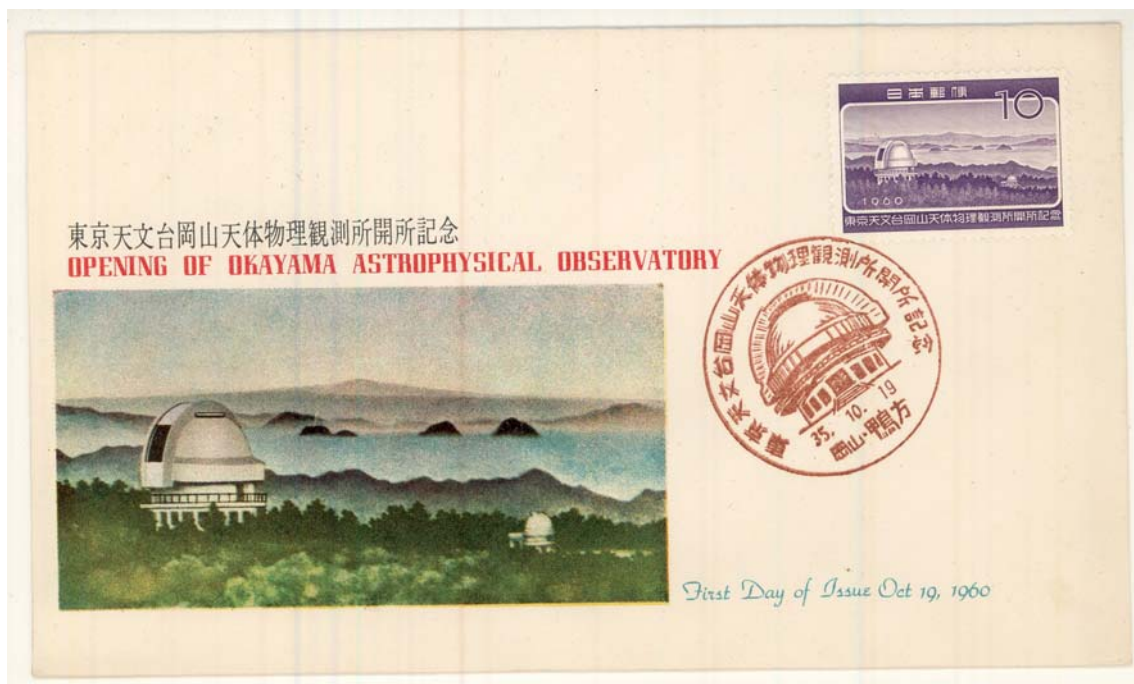


写真1 記念切手の図柄と同じ初日カバー

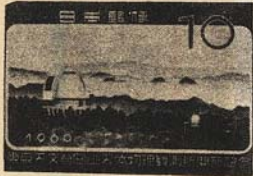
この封筒の中には、解説の文章(写真2)があるのだが、「この大望遠鏡は世界でも七番目に大きく直径188センチ、長さ約10米、重さ1トンで東洋では最大である」と書かれている。この記述は正しくない。「この大望遠鏡は世界でも七番目に大きく、主鏡の口径は188センチ、望遠鏡筒の長さは約10メートル、望遠鏡稼動部の重さは約50トンで東洋では

最大である」と書かれるべきである。

東京天文台岡山天体物理観測所開所記念切手

岡山県鴨方町竹林寺山に建設中の東洋最大の反射望遠鏡を有する岡山天体物理観測所が竣工開所するのでこれを記念して下記の記念切手が発行される。

この大望遠鏡は世界でも七番目に大きく直径188センチ、長さ約10米、重さ約1トンで東洋では最大である。日本中の候補地からここが選ばれたのは、夜暗れている日が多く空気が澄んでいて、星の観測にすぐれた土地だからです。近くに天文博物館もできます。



<table border="0"> <tr> <td>種類</td> <td>10円切手1種</td> </tr> <tr> <td>発行日</td> <td>昭和35年10月19日</td> </tr> <tr> <td>意匠</td> <td>観測所附近の風景を描</td> </tr> <tr> <td>刷色</td> <td>一度刷</td> </tr> <tr> <td>印面寸法</td> <td>縦22.5ミリ、横33ミリ</td> </tr> <tr> <td>版式</td> <td>凹版</td> </tr> <tr> <td>シートの構成</td> <td>縦4枚、横5枚の20面</td> </tr> <tr> <td>原画作者</td> <td>木村勝氏</td> </tr> <tr> <td>発行数</td> <td>8,000,000枚</td> </tr> </table>	種類	10円切手1種	発行日	昭和35年10月19日	意匠	観測所附近の風景を描	刷色	一度刷	印面寸法	縦22.5ミリ、横33ミリ	版式	凹版	シートの構成	縦4枚、横5枚の20面	原画作者	木村勝氏	発行数	8,000,000枚	<p style="text-align: center;">COMMEMORATIVE ISSUE</p> <p>Inauguration of Okayama Astrophysics Observatory</p> <p>Denomination: 10 yen</p> <p>First Day of Issue: October 19, 1960</p> <p>Design: Domes of astronomical telescope and their picturesque surroundings</p> <p>Printing Colors: Single colour of</p> <p>Size of Impression: 33mm × 22.5mm.</p> <p>Printing Process: Engraving Process</p> <p>Sheet Composition: 20(5×4) stamps per sheet</p> <p>Designer: Mr. Masaru Kimura</p> <p>Quantity Issued: 8,000,000 stamps</p>
種類	10円切手1種																		
発行日	昭和35年10月19日																		
意匠	観測所附近の風景を描																		
刷色	一度刷																		
印面寸法	縦22.5ミリ、横33ミリ																		
版式	凹版																		
シートの構成	縦4枚、横5枚の20面																		
原画作者	木村勝氏																		
発行数	8,000,000枚																		

写真2 写真1の初日カバーの解説文

次の初日カバーは、188cm望遠鏡ドームの絵がデザインされている(写真2)。



OKAYAMA ASTRO-PHYSICAL OBSERVATORY
of the Tokyo Astronomical Observatory
First Day of Issue OCTOBER 19TH, 1960



東京天文台岡山天体物理観測所完成記念

写真2 188cm望遠鏡ドームがデザインされた初日カバー

写真2の初日カバーの解説文は以下のとおりである。「岡山県浅口郡鴨方町と小田郡矢掛町にまたがる竹林寺山頂に、昭和35年(1960)10月に完成をみた。東京天文台岡山天体物理観測所を記念して発行された。この天文台は通称竹林寺山天文台と呼ばれ、東洋最大の1.9メートル(74インチ)反射望遠鏡を備えている。また天文台からの瀬戸内海の景観は絶景

である」。この表現は適当な解説であるが通称の竹林寺山天文台は長くは使われなかった。
又、別の188cm望遠鏡ドームの絵をデザインした初日カバーが写真3である。



写真3 188cm望遠鏡ドームの絵のデザインの初日カバー

写真3の初日カバーの解説文は、「山陽本線鴨方駅から北へ約10キロ登った海拔370メートルの竹林寺山頂上に東洋最大の74インチ反射望遠鏡を有する東京天文台岡山天体物理観測所が出来上がったので、その開所を記念して、10円の郵便切手を発行し、全国各郵便局で売りさばく」とある。又別の188cm望遠鏡ドームのデザイン写真4がある。

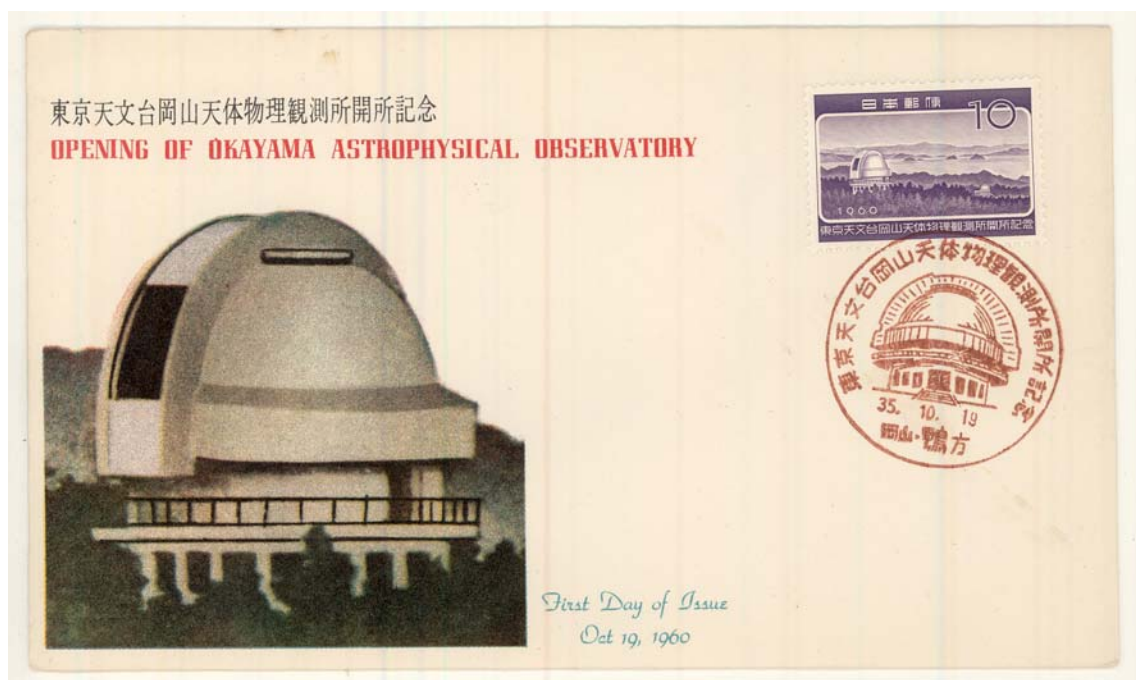


写真4 スリットが開いた状態のデザインの初日カバー

写真4の初日カバーの解説文は、写真1の解説文と同じ文章が添えられている。他に望遠鏡の絵を描いたものをデザインしたものが写真5である。



写真5 188cm望遠鏡の絵を使った初日カバー

写真5の初日カバーの解説文は、写真3のものと同じものが載せられていた。しかし、この初日カバーの望遠鏡が188cm望遠鏡の絵というには難点がありすぎる。記念切手発行はずいぶん前から検討されるのであろうか。望遠鏡のセンターキューブに取り付く部分が反対側に向いており、望遠鏡の鏡筒が極軸の先端部のわずかなところでついている。そしてバランスウエイトは極軸からもっと離れた部分の腕の先端になれば望遠鏡とのバランスが取れない。この絵は188cm望遠鏡がイギリス式赤道儀の架台に載せられている事を知らないで描いたようである。極軸の中央には立方体のセンターキューブがあり、その両側に望遠鏡とバランスウエイトが取り付けられるのである(写真6)。なぜこんな形の絵になったのであろうか。組上げられた望遠鏡を現実に見ていて、芸術としてこのような絵になるという見方もあるかもしれないが、あまりに現実とはかけ離れた姿に書かれているのである。望遠鏡が組み立てられる前の部分的な部品を見せられて描いたとしか思えないが、イギリスのグラブパーソンズでは仮組みも行なわれ、その写真も入手できたと思われるので不思議でならない。その上、望遠鏡鏡筒のトラス構造が絵ではセルリエトラスになっているが、188cm反射望遠鏡はセルリエではなく籠型トラスである。信じがたい変な望遠鏡の絵になっている。写真6に岡山天体物理観測所の設置当時の188cm反射望遠鏡の写真を載せておく。

ともあれ、1枚の記念切手にこのように5つもの初日カバーが発行されていることに驚いた次第である。記念切手そのものより、これらの初日カバーの方がずっと価値があるように思うのは筆者だけであろうか。この5点の初日カバーを貸してくださった野地氏にお礼申し上げる。岡山天体物理観測所開所記念の記念切手と同時に発売された初日カバーがこの5

点で全てかどうかは知らない。



写真6 センターキューブの両側に鏡筒とバランスウエイトがある188cm望遠鏡